

演育とは

知的能力を育て知識を学ぶ「知育」、身体活動により健やかな体を作る「体育」、感じ・考え・表現する力と心を育む『演育』、この三つが一体となって、真の人間力を育みます。

『演育』とは演劇的メソッドを手段として活用し、文字を音声にしたり、体を使って表現したり、心を形にしなが、人間力の基盤を培っていく教育方法であり、知育・体育も内に包括すると言えます。

人間力の基盤とは

「見る力」・・・人や状況や大切なものを見て理解する力

「聞く力」・・・自分とはちがう人や知らないことを聞いて知る力

「感じる力」・・・心が素直に反応する力

「話す力」・・・心にあるものを言葉にする力

「伝える力」・・・自分の表現したものが相手に伝えられる力

これらは、現代と次の時代の、あふれる情報・未知との出会い・多様な価値観にしっかりと対応し、自分の個性と他人の個性を理解して、個性の種を育むことで、心豊かに生きていく力となります。

私たちは、このテーマと方法である『演育』を具体的な活動を通して、提唱していきます。それが心を育む「Suginoko EN-IKU」です。

「演育」提唱の背景

AI到来など、予測を超える技術進化・あふれ飛び交う情報の中で世界は変化加速の時代。

これからの社会に対応して求められる「教育」も刻々変化しています。

教育は、知育・体育のみならず、「情報把握処理能力」をはじめ、対社会、対人間の関係性における「コミュニケーション能力」つまり「自己表現・伝達能力」等の涵養が必須課題となります。これは、「新学習指導要領」、「小学生から高校生の保護者」はもとより、「日本経団連」からも求められるものです。

また、AI時代の生き方について、現在の幼稚園児の6割は、今はない職業に就くことになると言われております。そこで幼児期から鍛えたい力は、①新たな価値を創造する力、②責任のある行動をとり続ける力、③対立やジレンマを克服する力の三つであると。それこそが、AIが真似できない人間力です。

これらは、知育や体育だけで養われるものではなく、これからの時代に求められる、真の「人間力」といえる領域であり、基幹教育として『演育』を提唱しています。

『演育』と従来の「演劇教育」の違い

(1)「演劇教育」とは、演劇を行う教育、あるいは演劇を観せる教育。

『演育』は、人間が古代から創造発展させてきた「演劇的方法」を手段として活用し、真の「人間力を育む」ことを目的とする教育です。

(2)『演育』では、知識や正解を教えるのではなく、感じ・考え・自分の思いを発見し、それを相手（人）に伝え、それと共に人の思いや考えを理解する力を育むことを目的とします。